

平成30年度主催事業 通学合宿
in 曾爾青少年自然の家



1. ねらい

- ①基本的な生活習慣と学習態度の確立を図る。
- ②参加者間の交流を深めコミュニケーション能力の育成を図る。
- ③栄養バランスのとれた正しい食習慣を養う。

2. 実施日

平成31年1月23日(水)～1月26日(土)
【3泊4日】

3. 対象者

曾爾村立曾爾小学校3～6年児童
御杖村立御杖小学校3～6年児童

4. 参加者 / 募集定員

12名(曾爾小:12名) / 20名

5. プログラム(要約)

家族から離れ異年齢グループでの朝食作り、洗濯、そうじ、入浴などの集団宿泊活動や宿題や自主学習などの学習活動を通して、基本的な生活習慣や学習態度を身につける。また、星座観察会、カプラ大会、キーホルダー・缶バッジ作り、ピザ作り体験などにより、参加者間の交流を深めコミュニケーション能力の育成を図った。



スケジュール

1月23日(水)

(学校生活)
オリエンテーション
宿泊部屋作り
夕食(食堂)
宿題・洗濯・朝ご飯の準備
星座観察会
お風呂・就寝準備



1月24日(木)

朝ご飯の準備
朝食(わかめご飯、卵料理、ハム、みそ汁、サラダ、ヨーグルト)
朝のつどい
(学校生活)
タベのつどい
夕食(食堂)
宿題・洗濯・朝ご飯の準備
カプラ
～巨大ナイアガラに挑戦～
お風呂・就寝準備



1月25日(金)

朝ご飯の準備
朝食(さけご飯、スクランブルエッグ、ソーセージ、コーンクリームスープ、サラダ、ヨーグルト)
朝のつどい
(学校生活)
タベのつどい
夕食(食堂)
宿題・洗濯
缶バッジ、キーホルダー、プラバン作り
お風呂・就寝準備



1月26日(土)

朝のつどい
部屋の掃除・片付け
朝食(食堂)
炊飯(ピザ作り)
終わりの会～振り返り～



1月23日(水)【1日目】

学校生活を終了後、自然の家のバスに乘車して、自然の家に集合した。参加者に、あまり緊張した様子はなく、移動の車中でも学校のこと、家のこと、通学合宿で楽しみにしていることなどたくさん話をしてくれた。

オリエンテーションで、通学合宿のめあて(友だちを思いやり、話し合い協力して生活すること)(友だちのいいところを見つけて、真似すること)(時間を大切に、自分で考えて生活すること)を確認した後、「朝自分で起きられるようになりたい。」「洗濯を上

手にできるようにしたい。」「朝ご飯の準備をがんばりたい。」など参加者各自のめあてを発表した。

オリエンテーション後、ベッドメイキング、着替え、洗濯、宿題、翌日の朝食の準備などに取りかかった。4年生以上の参加者8名は、昨年度に引き続いての参加で手際よく全ての活動を行った。初めて参加する3年生に洗濯機の使い方や洗濯物の干し方を教えてあげた。翌日の朝食の準備や学校に持って行くお茶の準備などを、班毎に友だちと協力して行った。お米を研いだり、お湯を沸かしてお茶を作ったり、上級生が下級生にお手本を示しながら活動を進めた。



全員が翌日のための全ての準備を済ませてから、一日目のおたのしみ活動の星座観察を行った。研修室で星座盤を使って、今どんな星座を見ることができるか学習した後、はつらつ広場で夜空を見上げた。満点の星空のもと、冬の大三角とオリオン座を見つけた。北極星やカシオペア座、火星なども見つけることができた。全員が、星の美しさに酔いしれた。

入浴後、女子は、バスタオルなどを自主的に洗濯したため、就寝時間が午後10時を少し過ぎてしまったが、午後10時30分には、全員が眠りについた。

1月24日(木)【2日目】

起床時間は、6時だったが、5時30分頃から動き始める子も多く、全員が6時にさっと目を覚まし、制服に着替えると6時10分には、朝食作りに取りかかることができた。活動班ごとに、卵料理、みそ汁、ゆかりご飯、サラダの担当に分かれて朝食の準備を進め、6時30分から全員そろって食べ始めた。「いつもの朝ご飯よりおいしい。」と全員がほぼ残すこともなく、6時50分にごちそうさまをして、高学年の子を中心に後片付けも短時間で済ませた。歯みがきをして、ランドセルを背負って、7時10分から朝のつどい(出発式)を行った。健康観察をすると、全員が「とても元気、絶好調」もしくは「いつも通り元気」のどちらかに挙手して、元気に登校した。

夕方、「ただいま」と宿泊棟に帰ってきた。何人かに「家に帰りたくなかった?」と聞いてみると、「全然、学校にいるときから、早く自然の家に行きたかつ

た。」と返事が返ってきた。2日目は、1日目よりさらにスムーズに洗濯や朝食の準備を行うことができた。



2日目のお楽しみ活動は、カプラ。全員で「ナイアガラの滝」という一つの作品に取り組んだ。一つでも積み損ねると、ドミノの崩しのように全て壊れてしまい、何度も途中で崩れてしまったが、「よし、もう一回。」と声があがり取り組んだ。失敗を重ねる度に、全員の集中力も増して、チームワークもよくなっていた。全員が、共通の目標に向けて取り組むことができた。最後は、かなり大きなナイアガラの滝となって、見事に崩れた。

2日目は、入浴後の洗濯も就寝までには完了して、10時に消灯ができた。

1月25日(金)【3日目】

3日目の朝6時、起床時間ではあるが、宿泊棟はシーンとしている。自ら目を覚ます子はいなかった。疲れもでているのだろう。また、自然の家での生活にも慣れ、緊張感が少し解けて、全員が熟睡していた。予定より10分遅れて朝食の準備に取りかかったが、チームワークの良さと朝の活動を乗り切り、出発のバスに乗り遅れることなく全員元気に登校した。

夕方、迎えのバスの中で子どもたちにまた、「家に帰りたくない?」と聞くと「全然!」と返ってきた。

「通学合宿をもっと長くして!」「一週間ぐらいがいい。」と言う子もいた。

夕食後、いつものように宿題を行い、その後洗濯物たたみ、荷物の整理をした。





3日目のお楽しみ活動は、缶バッジ・キーホルダー・プラバン作りである。通学合宿の思い出になるように、名前や日付を入れたり、家族へのプレゼントとしてキーホルダーを作ったりする子もいた。家族への感謝の気持ちが絵と言葉で描かれていた。

1月26日（土）【4日目】

いつもの朝より30分ゆっくと眠り、6時30分のチャイムで全員が起床した。朝のつどいまでの1時間で、シーツの返却、布団の片付け、荷物の整理、部屋の掃除をした。シーツを畳んだり、布団を整えたりする作業は、友だちと協力したり、助け合ったりする姿が見受けられた。その光景から3日間生活を共にした仲間意識の高まりを見て取ることができた。トイレや廊下などの共用部分の掃除は特に役割分担など話し合う時間を設けなかったが、全員で協力して、短時間で手際よくすることができた。

朝食後、最後のお楽しみ活動として、活動班に分かれてピザ作りを行った。各自で生地をこね、発酵させて、生地を伸ばし、ピザの具をトッピングしてピザ釜で焼いた。薪割りや釜に火を着ける作業も交代で行った。「杉葉を入るとよく燃えるよ」と言って、林の中の杉葉を集めた。



不思議なもので同じ材料で作ったピザだが、生地の練り方、伸ばし方、焼き方で味はかなり違い、お互いのピザを交換しながら、楽しくピザを味わった。

閉会式で、通学合宿の三つのめあてと自分のめあてを達成することができたかについて振り返り、活動を終えた。

6. まとめ

参加者は、全員が自然の家での生活を楽しみにして事業に応募して、意欲的に事業に参加した。だから、「朝食作りをがんばろう」「友だちと協力して生活しよう」というように自ら目標を持って活動することができた。テレビやゲームがない生活は、子どもたちにゆとりの時間をもたらすのではないだろうか。また、保護者のいない生活は、ときとして子どもたちにやる気と主体性をもたらすのではないだろうか。

4日間の通学合宿だけで、参加者の基本的な生活習慣と学習態度の確立が達成できるわけではないが、この合宿は、自分の生活を見つめ直し、改善するきっかけとなったと思う。また、4日間寝食を共にして新たな友だちの一面を発見し、友だちを見つめ直し、自分を見つめ直す機会にもなったと考える。

来年度も通学合宿で参加者のさらに成長した姿を見ることが今から楽しみである。

(主任企画指導専門職 田中 耕司)

